

# 論理的説明力育成を通じた学習理解・ 人間理解の促進

代 表 者：角谷詩織  
(上越教育大学大学院学校教育研究科准教授)

研究共同者：田島弘司  
(上越教育大学大学院学校教育研究科准教授)

鏑木良夫  
(草加市立瀬崎小学校教諭)

# 研究成果要約

## 1. 研究活動概要

小学生の論理的説明力の育成の意義を、次の6点から検討した。(1)小学生の意識や生活習慣などの実態を把握したうえで、日常的な文章の読み書きが、論理的説明力や学業への自信や意欲を高めるのかを検討する。(2)学習過程でのどのような認知的行動(整理・理解しながら学習を進めること、わからない状態にあることに気づくこと、リテラシーを伴った読み取りかたを工夫すること、必要な情報を整理して説明することなど)が学業への自信や意欲に影響を与えるのかを検討する。(3)授業中の児童の説明が、発言者自身や他の学習者の理解をどのように促進するのか、あるいは混乱を招くのかを検討する。(4)教師が、メタ認知的支援として、論理的説明に関わる言語的介入(問い直し、言い換え、質問形式による思考の構造化への誘導)の機会を増加させることにより、論理的説明、理解力の向上がみられるかどうかを検討する。(5)より高度な論理的説明力が、学習のメタ認知能力や人間関係力に有効であるのかを検討する。(6)児童の論理的な説明力や理解力を向上させるための実践を試みる。

以上6点について、約1,500名の小学生を対象とした、夏休み前、春休み前の縦断的質問紙調査、また公立小学校5年生を対象とした、毎月2回のビデオ記録を伴う授業観察と毎月1回の授業中の説明活動に関する振り返りシートの実施、児童の論理的説明力育成をねらいとする実践成果の分析を行った。

## 2. 成果概要

本研究から、大きく以下の5点が示唆された。(1)新聞やマンガ以外の本を読むことの意義:新聞を読むことは、学年が上がるにつれ頻度が高まる一方、マンガ以外の本は、低学年ほどよく読まれる。このような違いはみられるが、いずれの学年も、新聞を読むことは、論理的理解の努力、学業への自信、心理的適応、人間関係への積極性の高まりと関連する。(2)インターネットのネガティブな影響:学年が上がるにつれ、インターネットを利用した調べ活動やチャットなどの友だちとのやり取りが増加する。しかし、それらは抑うつ傾向の高さと関連する。(3)わからないことの自覚ではなく、曖昧なことへのこだわりの大切さ:理解不足を自覚することは、学業への自信の低下、人間関係消極性と関連する可能性がある。一方、曖昧な事柄を曖昧なままにせず課題に取り組むことは、学業への自信や人間関係積極性の高さと関連する。(4)小学校での授業は、不完全な言語説明から成り立っている:児童は、教師の導きなしに、公的特性の強い場面で完全な言

語説明をすることに困難を示す。そして、それらの「ごちゃごちゃした」説明を通して授業が進められていく。その中で、子どもたちは課題や事象を理解していくが、その際、教師による一問一答型の発問によるサポートが足場となる。また、より個人的な関係での説明のやり取りは、教師の導きなしに理解しやすい説明となり、グループでの説明など、個別の説明活動が有効である。(5) 不完全な説明活動を教師がサポートしながら理解を進めることも一つの手段であるが、子どもの説明スキルを向上させることも手段の一つとなる。どのように説明したら友だちにわかってもらえるのかについて、「私のモンスター」課題\*などの絵と言葉を用いた実践を行うことによる児童のスキルの向上も期待される。

\* アメリカの「Challenge 2000 Multimedia Project」の実践（本研究での「私のモンスター」課題）は、スキル向上のための有効な実践介入である。それは、自分の空想に基づいて紙に描いたモンスターについて、文章で記述して説明し、文章を読んだ友だちにそのモンスターの絵を描いてもらい、描く過程で生じた質問等をフィードバックすることを複数回繰り返す実践である。自分のことばの力を認識できる。

### 3. 成果活用について

(1) 児童の実態から、今日の児童は、インターネットを用いた言語的活動を行う機会が増えている。しかし、従来からの本や新聞、日記を通じた言語的活動で論理的説明・理解力を育成できる可能性、また、論理的説明、論理的理解の力は、学業への自信や人間関係への自信につながる可能性が示唆された。これらと併せ、児童のインターネットの利用方法を、保護者や教師らに伝える。(2) 授業において、論理的説明・理解力を育てるような教師の介入として、児童の説明を細かく区切ったり、言い換えたり、問いなおしたりすることが重要であること、また、小グループなどの個別説明の機会を設けることで、これらの教師の介入がない状態でも論理的理解力・説明力が訓練されることを伝え、実践への取り入れを推奨する。(3) 論理的説明力育成のためのプログラム実践も有効であり、その一つに、「私のモンスター」課題があることを例示し、取り入れを推奨する。

### 4. 今後の研究課題

児童の学力、学習方略等、タイプ別に、特に有効な論理的説明・理解力育成のための教師の実践的介入やプログラムの検証を行い、学校教育の場で、また、日常生活の中で有効な言語活動を明らかにする。